

1ねん学年だよ

平成27年12月15日(火) 第28号



平和学習会



12月2日(水)と12月9日(水)の2回にわたって、平和学習がおこなわれました。きっとこれまでに、「太平洋戦争」や「原子爆弾」など、戦争に関する学習をおこなったことはあると思いますが、今回は「大阪大空襲」のことを中心に学習しました。

大阪大空襲

太平洋戦争の末期にアメリカ軍によって繰り返し行われた、大阪市を中心とする地域に対する大空襲のこと。1945年3月13日深夜から14日未明にかけての大空襲が1回目で、以後、6月に4回、7月に2回、8月に1回と、計8回にわたっておこなわれた。大阪大空襲によって、15000人以上の一般市民が亡くなったとされている。

まず2日(水)は、プリント資料やワークシートを用いて、大阪大空襲そのものについて学習しました。考えてみれば当然なのですが、私たちが暮らす西区も大阪大空襲の被害を受けていたのです。堀江中学校が建っている敷地には、小学校(国民学校)がありましたが、空襲の爆撃で、その校舎の鉄筋だけが残っている写真を見ました。

9日(水)には、実際に大阪大空襲を経験された伊賀孝子さんを講師にお招きし、体育館でお話をいただきました。実体験に基づくお話は、プリントの資料で学習するのとは違って、私たちの心に迫るものがありました。たとえば、爆撃による“火の海”の中を、伊賀さんが逃げていった話がありました。「辺りは火の海で…」という表現はよく耳にしますが、それらの“火の海”の中には、亡くなっている方の遺体もあるのだということに、改めて気づかされたのではないのでしょうか。私たちは、戦争に関する映画やドラマなど、いろいろな映像を見ることがありますが、そこで目にする映像は、実は、戦争の一番²⁵醜い部分は映していません。「戦争の一番醜い部分」、それは、やはり「人が死んでいる」ということです。「15000人以上が亡くなった」というと、その人数の方に意識が向かいがちですが、親や兄弟、友人や恋人など、愛する「1人」が目の前で死んだということを忘れてはいけません。“火の海”には、そのときの遺体が、まるで誰からも愛されていないように、まさに“物”のように、そこらじゅうに転がっているのです。伊賀さんのお話は、「戦争は人が死ぬものなのだ」ということを、おそらくどんな映画やドラマを見るよりも、もっと鮮明なイメージを残してくれました。戦争を体験していない私たちにとっては、そのイメージこそが財産なのだと思います。

平和学習会を終えて

※生徒の感想より抜粋

◆今日のお話を聞いて、戦争がどんなに恐ろしくみにくいものかと考えることができました。目の前に火の海が広がる光景や、人が燃えて死んでいくところを、私たちは経験することができません。もちろん戦争は絶対にあってはならないものだし、二度と起こってほしくありません。私たちは、それぞれがそのことを深く考え、後世にも語り継ぎ、どれほど戦争が怖いものかを1人ひとりが理解することが大切だと思います。

◆私は今日話を聞いて、私たちは今普通に学校に行って勉強したり遊んだりしているけど、戦争のときには、今では当たり前前のができなかったということを知りました。また、爆弾などで家族が死んだり、疎開などで家族がバラバラになったりしてしまうと聞いて、家族と一緒にいることができないのはとても不安だったと思います。今普通にしていることを大事にしていきたいです。

◆まず一番感じたことは、“戦争は怖い”ということです。今日初めて生で戦争を体験された方からお話を聞いて、改めて感じました。一般の人々を巻き込んで多くの犠牲者を出した戦争への怒りもあります。そして、まだ小さな子どもや大人の方が苦しみながらも生きようとし、目の前で自分の大切な人が亡くなるなどという気持ちは、私たちが思っている何倍も大きな悲しいことだと思います。生徒会長が言ったように、生きたいのに亡くなってしまった方、勉強をしたかったのにできなかった方のためにも、今生きている私は、これからもっと勉学に励み、1日1日を大切にしながら生きていきたいです。

◆今日のお話を聞いて、私はやっぱり戦争はいけないなと思いました。実際に体験した方の話を聞いたことがなかったので、より細かく戦争について知ることができました。それに、残酷さが伝わりました。伊賀さんの弟さんが背中に大ケガを負われた写真を見た時、「焼夷弾1つで背中がこんなになってしまうなんて」と衝撃でした。また、伊賀さんのご近所の小1の男の子のように、頭にたたきこまれた「防空壕に逃げておけば安全」というのもう一度家に帰って亡くなられた人も大勢いらっしゃるんだろうなと考えました。今日の2時間で、戦争のひどさ、残酷さが心に響きました。

◆戦争をするということは、必ずどこかで死ぬ人が出てきて、誰かが悲しみ、誰かが怒って、負の連鎖が起こると思います。戦争の死者の数に比例すると思うし、誰かがどこかで悲しむことも許せません。いつか僕にも子孫ができて、戦争の話をするときが来るでしょう。そのときには、「こんなことがあったんだよ」、「戦争はいけないことで、必ずどこかで悲しむ人が出るんだよ」と伝えていきます。そのためにも、今のこの恵まれた環境を無駄にすることなく、精一杯勉強しようと思いました。がんばります。

◆戦争があった時代は、勉強したくても勉強をすることができない子ども達がたくさんいたことが一番心に残りました。今の僕たちは「勉強したくない」と言っているけれども、戦争時代の学校生活の体験を聞いていると、せっかくこんな豊かな時代に生まれて、良い環境で勉強できるのに、なんでそんなことを思っていたんだろうと思います。また、小学生のときに家族を失う、生きていたいのに生きることができなかった人がたくさんいたんだと思うと心が痛みます。そのような人のことを考えながら生きていこうと思いました。

保護者のみなさまへ

先日、すべての学年で平和学習会をおこないました。平和学習で学ぶことは、結局のところ「戦争はだめだ」ということに尽きると思います。しかし、生徒たちがおとなになったとき、そのことをどうやって子どもに伝えていくかが重要です。将来、次の世代に語り継いでいくために、今のうちからたくさんの知識を蓄えて、いろいろなことを考え、豊かな表現力を身につけてほしいと思っています。ご家庭でもぜひ話題にしていきたいと思います。